

平成24年1月28日(土)

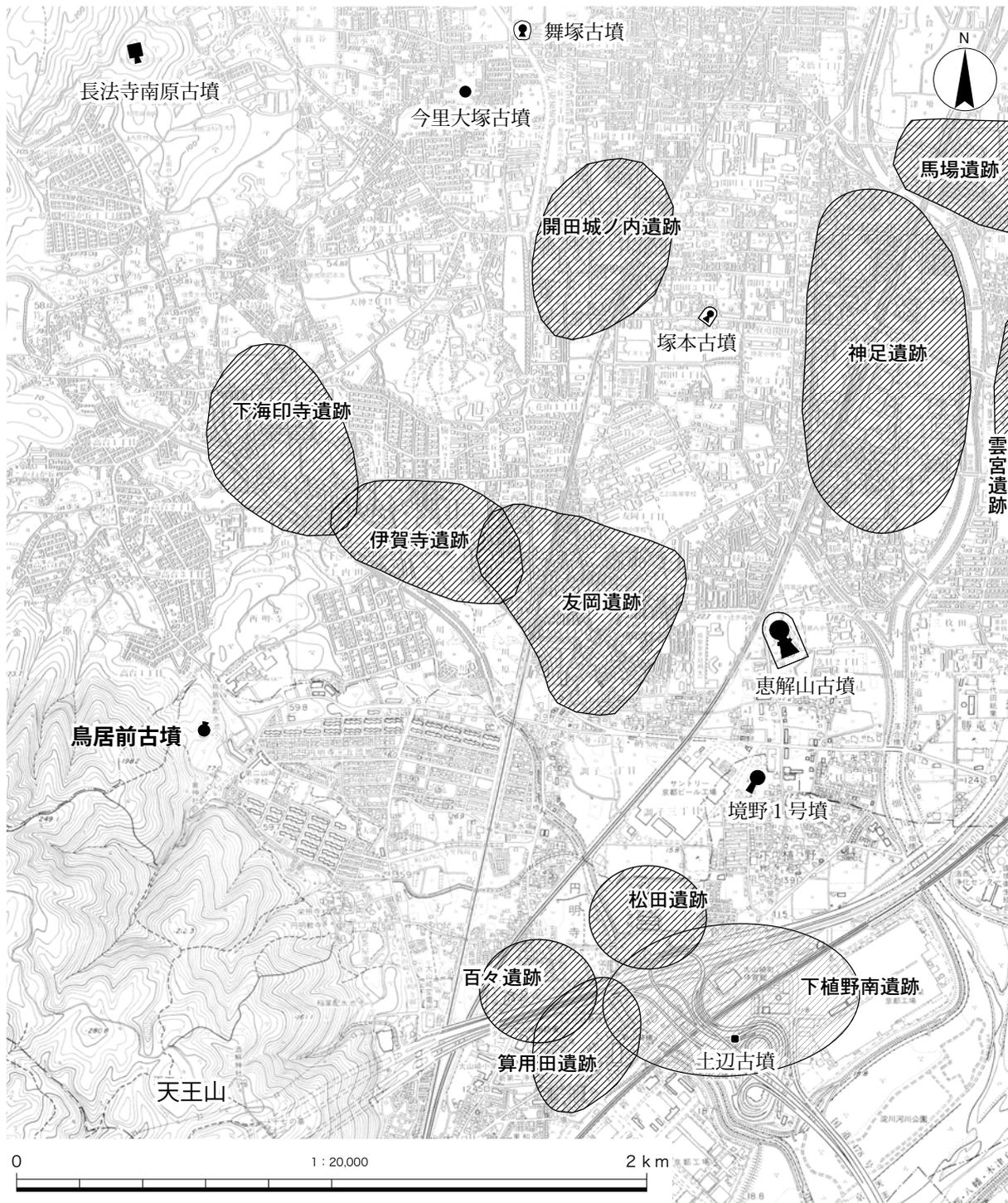
とりいまえこふん
鳥居前古墳第6次調査現地説明会資料

大山崎町教育委員会

調査地 大山崎町字円明寺小字鳥居前 12-1、18-4、71-1、71-2

調査期間 平成23年11月24日～平成24年2月初旬(予定)

調査面積 約75㎡



第1図 鳥居前古墳周辺の古墳と集落遺跡

概要

鳥居前古墳は、これまで5回に及ぶ調査の結果、全長約51メートル、後円部径約39メートルの前方後円墳であることが確認されています。墳丘は、後円部が三段、前方部が1段に復原され、斜面には葺石が施工されています。また、前方部からクビレ部の東側面の裾では、さらに墳丘斜面が、一段分築造されています。主体部は竪穴式石室であり、^{がもんたいかんじょうにゆうしんじゅうきょう ともえがたどうき}画文帯環状乳神獣鏡・巴形銅器・剣・短刀・勾玉・管玉などが出土しています。巴形銅器は、朝鮮半島の南部からも出土しており、ヤマト政権の外交関係に關与する被葬者像が想定されます。これら副葬品や円筒埴輪の特徴から、鳥居前古墳は、古墳時代前期末から中期初頭に位置づけられます(西暦400年前後)。

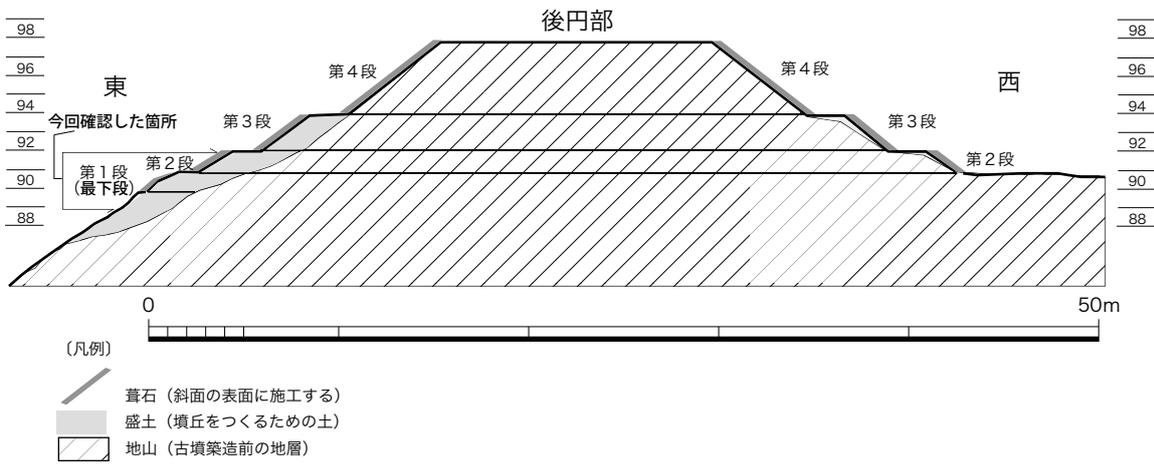
今回の調査では、クビレ部東側から後円部にかけて墳丘斜面を検出し、墳丘西側に比べて、裾部分を1段多く築造していることが確認できました(第2・3図)。この裾部分に築造されている斜面は、「最下段」にあたり、盛土によって成形され、上段斜面と同様に葺石が施工されています。こうした状況によると、「最下段」は、付加的なものではなく、一連の墳丘として築造されていることがわかります。この「最下段」は、前方部前端および墳丘の西側面には存在しないことが、第4次調査で確認されています。

したがって、この「最下段」は、墳丘の東側面にかけて施工され、墳丘の東側を高く見せるように意識して、築造されたことがうかがえます。今回の調査成果によって、後円部の最大幅は、約42mであったことが、わかりました。今後は、この「最下段」の後円部南側の施工範囲の確認が課題といえます。

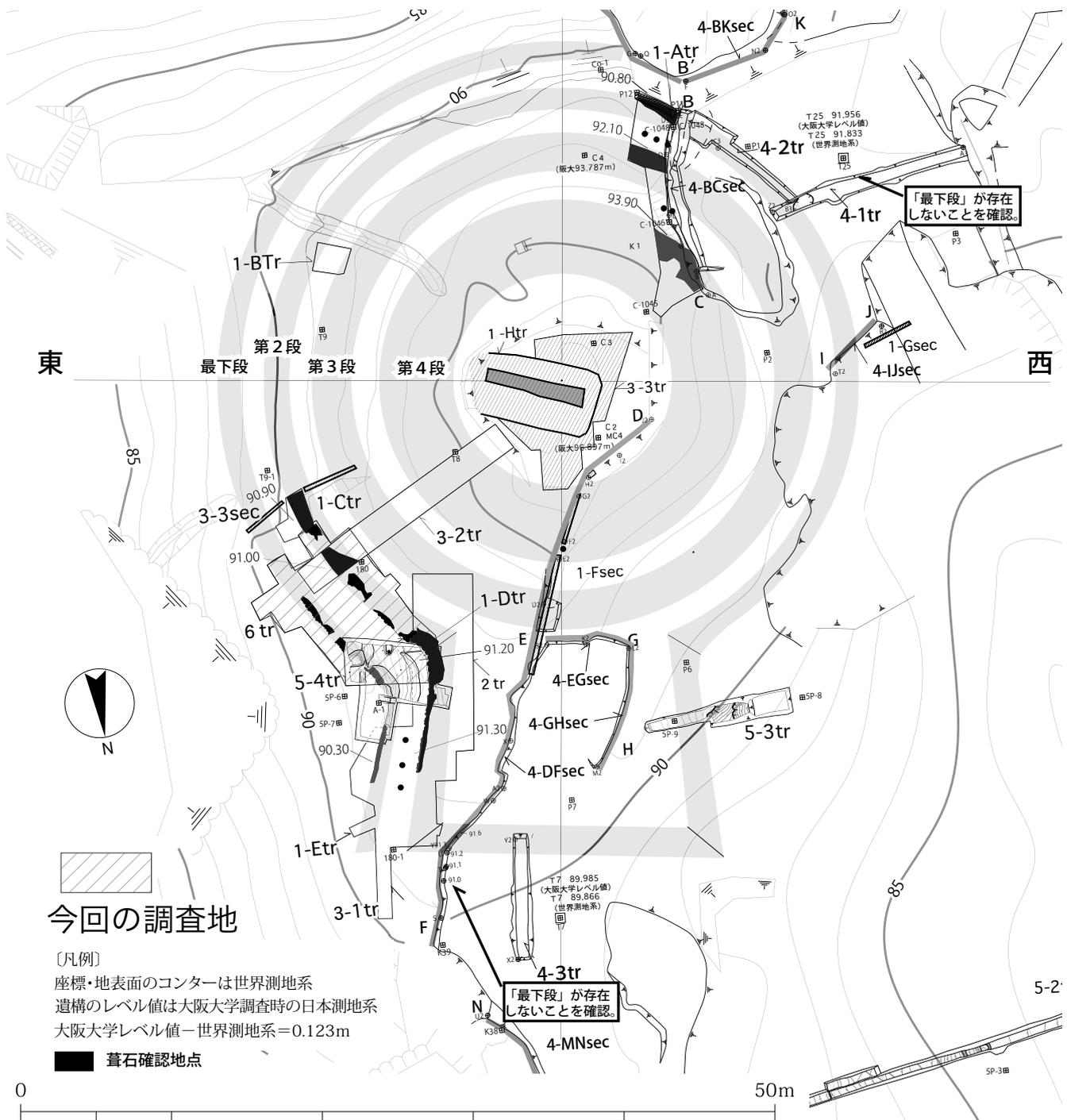
鳥居前古墳の東側には、小泉川流域に集落遺跡が点在しており、畿内の河川交通の要である淀川が近くに存在します。鳥居前古墳は、これら東側の居住域や水上交通路からの見栄えを強く意識したようです。こうしたあり方は、古墳とその母体となった集落や交通路との関係を考える上でも、重要な成果として位置づけられます。

表1 鳥居前古墳の概要

古墳名	鳥居前古墳	所在地	乙訓郡大山崎町円明寺鳥居前	
			墳形	前方後円墳
				時期 前期末 (西暦400年前後)
立地	丘陵	推定規模	全長51(+3)m、後円部径38.4(+3)m 高さ7(+1)m、前方部幅21m	段築 東側面観は、後円部4段・ 前方部2段
埴輪	円筒(普通・ヒレ付・朝顔形)、形象(蓋形・家形) II期		葺石	有
埋葬施設	竪穴式石室(長さ6.5m、幅1.2m)		棺	割竹形木棺(長さ5.3m、幅0.7m)
副葬品	画文帯環状乳神獣鏡・勾玉・管玉・巴形銅器・革綴短甲・鉄刀・鉄剣・鉄斧・刀子・やりがんな			
調査一覧	昭和44年(1969)7.14~9.1 (第1次)京都府教育委員会 昭和61年(1986)7.21~8.19 (第2次)大山崎町教育委員会・大阪大学文学部考古学研究室 昭和63年(1988)7.18~8.30 (第3次)大阪大学文学部考古学研究室 平成22年(2010)5.19~7.22 (第4次)大山崎町教育委員会 平成22年(2010)11.2~平成23年1.14 (第5次)大山崎町教育委員会 平成23年(2011)11.11~平成24年2. (第6次)大山崎町教育委員会			
調査成果	第1次調査:主体部、墳丘(後円部南側第1段?第3段、くびれ部東側第1段裾)、崖面精査 第2次調査:墳丘(第1段裾、くびれ部東側から前方部東側) 第3次調査:墳丘(前方部東側の墳裾、後円部東側の墳裾、墳頂部) 第4次調査:墳丘(後円部西側の墳裾、各崖面観察) 第5次調査:墳丘(前方部西側面の墳裾) 第6次調査:墳丘(クビレ部東側から後円部にかけての墳裾)			
文献	第1次調査:京都府教育委員会『埋蔵文化財調査概報1970』 第2次調査:大山崎町教育委員会『鳥居前古墳』(大山崎町埋蔵文化財調査報告書第6集)1987 (調査主体:大阪大学文学部考古学研究室) 第3次調査:大阪大学文学部考古学研究室『鳥居前古墳(総括編)』1990 第4・5次調査:大山崎町教育委員会『大山崎町埋蔵文化財発掘調査報告書第42集、2011』			



第2図 墳丘断面模式図 400分の1



第3図 鳥居前古墳の墳丘復原と調査箇所 (第6次調査まで) 400分の1

地域大区分		山田・檜原	向日	長岡・山崎			
流域・地域区分		寺戸川上流	寺戸川中流	向日丘陵東縁	向日丘陵	小畑川・坂川・犬川流域	小泉川流域
古墳時代	埴輪編年	A (山田檜原)		B (向日丘陵)			
	前期	Ⅰ期後半	○ 50 百々池	◐ 114 妙見山			
後期	Ⅱ期	● 86 天皇ノ杜	● 65 伝高畠陵	C (長法寺・今里)		D (山崎)	
				■ 60 長法寺南原	■ ? 境野1号 土辺?	● 51 鳥居前	
中期	Ⅲ Ⅳ期	● 50 巡礼塚	● 40 牛廻り	● 35? 鏡山	● 36 カラネガ岳2号		
		● 50 山田桜谷2	● 24 南条3号	■ 30 今里庄ノ淵		◐ 128 恵解山	
				■ 宇津久志	■ 南栗ヶ塚		

第4図 鳥居前古墳前後の主要古墳の変遷



クビレ部東側の「最下段」と第1段（北から）